

一般

段級

先^{まづ}哀^{あはれ}なり。「女^になれどもかひ^くび^くしき^く名^の世^にに
 聞^{きこ}へつる物^{もの}かなしと袂^{たもと}をぬらしぬ。墮^た土^ら涙^のの石^{いし}
 碑^ひも遠^{とほ}き^きにあらず。寺^{てら}に入^いて茶^{ちや}を
「奥の細道」
 悲しい。彼女らは、二人の夫の戦死の後、甲冑に身を包んで亡き夫らの姿を装い、兄弟の母を
 慰めたなど、そのかいがいしい話が伝えられているにつけても涙を誘われる。まさに墮涙の
 「石碑は遠くにあらず」だ。茶をいただこうと寺に入ってみれば、

